

# 護持

護持 (月刊)

発行所

本派本願寺

ハワイ別院

1727 Pali

HWY.,

Honolulu

HI, 96813

(808)

536-7044

E-mail:

hibetsuin@haw

aii.rr.com

即如<sup>そくによ</sup>ご門主<sup>もんしゅ</sup>がご退任<sup>たいにん</sup>、

新しく専如<sup>せんによ</sup>ご門主<sup>もんしゅ</sup>がご就任<sup>しゅうにん</sup>

即如<sup>そくによ</sup>ご門主<sup>もんしゅ</sup>のおことば

退任<sup>たいにん</sup>に際<sup>さい</sup>しての消息<sup>しやうそく</sup>

本日<sup>ほんじつ</sup>、平成<sup>へいせい</sup>二一六年<sup>にじゅうろくにんねん</sup>六月<sup>ろくがつ</sup>五日<sup>いつか</sup>をもつて、私<sup>わたくし</sup>は本願寺<sup>ほんがんじ</sup>住職<sup>じゆうしやく</sup>ならびに浄土真宗<sup>じやうどしんしゆ</sup>本願寺派門主<sup>ほんがんじほんもんしゆ</sup>を退任<sup>たいにん</sup>し、後<sup>あと</sup>を本願寺<sup>ほんがんじ</sup>嗣法<sup>しんぽう</sup>・新門<sup>しんもん</sup>に託<sup>たく</sup>すことになりました<sup>いたしました</sup>。昭和<sup>しやうわ</sup>五二年<sup>ごじゅうにねん</sup>四月<sup>しがつ</sup>一日<sup>いちにち</sup>、

法統<sup>ほうとう</sup>を継承<sup>けいしやう</sup>して以来<sup>いらい</sup>、三十七年<sup>さんじゅうしちねん</sup>二か月<sup>にがげつ</sup>になりました。至<sup>いた</sup>らぬことが多々<sup>たまた</sup>あった中<sup>なか</sup>、今日<sup>けふ</sup>まで務め<sup>つと</sup>ることができましたのは、仏祖<sup>ぶつそ</sup>のご加護<sup>かご</sup>は申<sup>もう</sup>すまでもなく、宗門<sup>しゆもん</sup>内外<sup>ないがい</sup>の方々<sup>かたがた</sup>のご支援<sup>しえん</sup>、ご理解<sup>りかい</sup>とご協力<sup>きやうりやく</sup>のお蔭<sup>かげ</sup>であります。皆<sup>みな</sup>様に<sup>さま</sup>、心<sup>こころ</sup>より感謝<sup>かんしゃ</sup>申<sup>もう</sup>上げます<sup>あ</sup>。



この間<sup>かん</sup>、本願寺<sup>ほんがんじ</sup>では、阿弥陀堂<sup>あみだどう</sup>の修復<sup>しゆふく</sup>、顕如上人<sup>けんによしやうにん</sup>四百回忌<sup>よんひゃつかい</sup>、蓮如上人<sup>れんにょ</sup>五百回遠忌<sup>ごひゃくかいおんき</sup>、御影堂<sup>ごえいどう</sup>の修復<sup>しゆふく</sup>、

宗祖<sup>しゆそ</sup>上人<sup>しやうにん</sup>七五〇回忌<sup>ななひやくごじつかい</sup>、大遠忌<sup>だいでんき</sup>等<sup>ら</sup>のご縁<sup>えん</sup>を皆様<sup>みなさま</sup>とともにすることができました。さらに、北境内地<sup>きたけいだいち</sup>を取得<sup>しゆとく</sup>できたお蔭<sup>かげ</sup>で、活動<sup>かつどう</sup>をより広く展開<sup>てんかい</sup>できるよになりました。また、宗門<sup>しゆもん</sup>では基幹<sup>きかん</sup>運動<sup>うんどう</sup>の推進<sup>すいしん</sup>とともに、さまざまの活動<sup>かつどう</sup>や事業<sup>じぎやう</sup>がありました。世界各地<sup>せかいいかくち</sup>にも、お念仏<sup>ねんぶつ</sup>

の輪<sup>わ</sup>が広が<sup>ひろ</sup>っています。それらを、巡教<sup>じゆんきやう</sup>などによつて身近<sup>みじか</sup>に知り<sup>し</sup>、御同朋<sup>おんどうぼう</sup>の思い<sup>おも</sup>を確か<sup>たし</sup>めることができましたこと、まことに有難<sup>ありがた</sup>く思います。この三十七年<sup>さんじゅうしちねん</sup>間は、勝如<sup>しょうにょ</sup>前門主<sup>ぜんもんしゅ</sup>の戦争<sup>せんそう</sup>を挟<sup>はさ</sup>んだ激変<sup>げきへん</sup>の五十年<sup>ごじゅうねん</sup>に比べれば、やや穏<sup>おだ</sup>やかとも言<sup>い</sup>える時代<sup>じだい</sup>でしたが、国内<sup>こくない</sup>では大小<sup>だいにしやう</sup>の天災<sup>てんさい</sup>・人災<sup>じんさい</sup>が相次<sup>あいつ</sup>ぎ、経済<sup>けいざい</sup>価値<sup>かち</sup>が優先<sup>ゆうせん</sup>された結果<sup>けつこ</sup>、心<sup>こころ</sup>の問題<sup>もんだい</sup>も深刻<sup>しんこく</sup>化<sup>か</sup>しました。世界<sup>せかい</sup>では、武力<sup>ぶりよく</sup>紛争<sup>ふんそう</sup>、経済<sup>けいざい</sup>格差<sup>かくさ</sup>、気候<sup>きこう</sup>変動<sup>へんどう</sup>、核物質<sup>かくぶつ</sup>の拡散<sup>かくさん</sup>など、深刻<sup>しんこく</sup>なあるいは人類<sup>じんるい</sup>の生存<sup>せいぞん</sup>に関<sup>か</sup>わる課題<sup>かだい</sup>

が露わになりました。その中で、心残りには、浄土真宗に生きる私たちが十分に力を発揮できたとはいえないことです。私たちの宗門は、門信徒一人ひとりに、み教えが受け継がれるという素晴らしい伝統を持って素晴らしい伝統を持っています。これからも、社会の変動の中にあつて、浄土真宗のみ教えや伝統にある多様な可能性を見つけ出し、各人、各世代、それぞれの個性と条件を活かし、特に若い世代の感性と実行力を尊重して、一人でも多くの方を朋とし、御同朋

の社会をめざして歩むことが出来るよう願っております。

後を継ぎます新門主は、築地本願寺で五年九か月の間、副住職を務めて経験を積み見聞を広めています。今後は、法統を護るとともに、宗門全体を思い、広く宗教界を視野に入れて、務めることとなります。皆様の一層のご支援をお願いいたします。

なお、私は、七十歳まであと一年余りとなりました。先のことは予測できませんが、阿弥陀如来の揺るぎない本願力の

中に、宗祖聖人のみ教えを仰ぎ、浄土真宗の僧侶としての務めを、できる限り果たしたいと思っております。

二〇一四年  
(平成二十六年)

六月五日

龍谷門主 釈即如

専如ご門主のおことば

法統継承に際しての消息

本日、私は先代門主の意に従い、法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門

主に就任いたしました。ここに先代門主の長きにわたるご教導に深く感謝しますとともに、法統を継承した責任の重さを思い、能う限りの努力をいたす決意であります。釋尊の説き明かされた阿弥陀如来のご本願の救いは、七高僧の教えを承けた宗祖親鸞聖人によつて、浄土真宗というご法義として明らかにされ、その後、歴代の宗主方を中心として、多くの方々に支えられ、現代まで伝えられてきました。その流れを受け継いで今ここに法統を継承し、未

来に向けてご法義が伝えられていきますよう、力を尽くしたいと思います。宗門の過去をふりかえりますと、あるいは時代の常識に疑問を抱かなかつたことによる対応、あるいは宗門を存続させるための苦渋の選択としての対応など、ご法義に順っていないと思える対応もなされてきました。このような過去に学び、時代の常識を無批判に受け入れることがないよう、また苦渋の選択が必要になる社会が再び到来しないよう、注意深く見極めていく必要があ



ります。宗門の現況を考えます時、各寺院にご縁のある方々への伝道はもちろんのこと、寺院にご縁のない方々に対して、いかにしたらきかけていくのかを考えることも重要です。本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化につれて

変わっていかねばならないでしょう。現代という時代において、どのようにしてご法義を伝えていくのか、宗門の英知を結集する必要がありま。また、現代のさまざまな問題にどのように取り組むのか、とりわけ、東日本大震災をはじめとする多くの被災地の復興をどのように支援していくのかなど、問題は山積しています。「自信教人信」のお言葉

をとともに背負い、御同朋の社会をめざして皆様と歩んで参りたいと思ひます。二〇一四年（平成二十六年）六月六日 龍谷門主 釈専如

**ご案内**  
 ハワイ別院では今年の秋の彼岸会を次の通りお勤めいたします。この法要は仏さまのさとのり（彼岸）の美しさと調和に心をよせて、お念仏のみ教えを聞き、よろこぶためにおつとめされます。

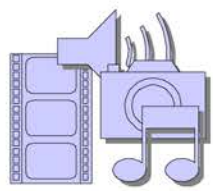


その他にも、  
 ・九月十九日(金) 平和の日サービス  
 ・九月二十日(土) 八時半・一二時  
 お彼岸「トーク・ストーリープログラム」アネックス  
 ・九月二十七、二十八日(土日) 音楽フェスティバル  
 等がございます。

ご家族、ご友人と共に  
 どうぞお参り下さい。  
 九月二十一日  
 午前八時 日本語法要  
 増田ウイリアム開教使  
 午前九時半 合同英語法要  
 増田ウイリアム開教使  
 午後一時 日中法要  
 初瀬部唯可開教使

9月のご法縁

9月7日	午前8:00 午前9:00 午前10:00 午後1:00	日本語礼拝 ダーマスクール礼拝 英語家族礼拝 日中日本語礼拝	富岡智史開教使 初瀬部唯可開教使 アーサー・カウフマン開教使 宗藤達雄開教使
9月14日	午前8:00 午前9:00 午前10:00 午後1:00	日本語礼拝 ダーマスクール礼拝 英語家族礼拝 日中日本語礼拝	宗藤達雄開教使 アーサー・カウフマン開教使 初瀬部唯可開教使 萩尾豊一開教使
9月21日	午前8:00 午前9:30 午後1:00	日本語礼拝 合同礼拝 日中日本語礼拝	ウィリアム・増田開教使 ウィリアム・増田開教使 初瀬部唯可開教使
9月28日	午前8:00 午前9:00 午前10:00 午後1:00	日本語礼拝 ダーマスクール礼拝 英語家族礼拝 日中日本語礼拝	萩尾豊一開教使 富岡智史開教使 宗藤達雄開教使 富岡智史開教使



KZOO放送 本願寺アワー 毎週土曜日午前7時半より AM 1210 Mhz

9月6日	宗藤達雄開教使	今月号より、富岡智史開教使が護持を書くことになりました。よろしくお願いたします。
9月13日	戸島良三引退開教使	
9月20日	萩尾豊一開教使	
9月27日	八木晃紹開教使	